



三浦半島では希少となった茅葺き民家「万代会館」。北下浦地域は横須賀の別荘文化を代表する万代会館（茅葺き別荘）が、その存続に向けて市民による保存継承提言が行われており、今後の動向が注目されています。また、横須賀の歴史的建造物を見る上で関東大震災の影響に注目することも重要で、震災で倒壊寸前の被害を受けながらも粘り強く存続し続ける本行寺本堂は、独特の迫力を有しています。

横須賀市立万代会館は昭和 53（1978）年 5 月、この地で最期を迎えた万代トミ氏の生前の意志、遺言により木造茅葺平屋建ての家屋と土地約 5,580 m²が、ソニー株券 30,000 株と共に、同年 11 月横須賀市に遺贈され、市は翌年に集会施設として整備し、昭和 55 年（1980）から無料貸室施設として庭園も含め公開し広く利用されてきました。

建物の概要は、鉄板瓦棒葺き屋根の玄関棟、4 棟の茅葺建物が「雁行」という食い違った配置で連なる特徴があります。ギヤマンと呼ばれるガラスを嵌めたガラス戸を開けると風通しの良い明るい部屋が続いています。内部の造りは和風で、玄関に沓脱石、取次の間は畳敷き、廊下も畳敷きだったと思われ、広縁は下屋で掛け込み天井、掛け込み平書院の付いた床の間、櫛型欄間、10 畳間には琵琶床、洋間サンルームの天井は杉皮に白樺の小丸太を竿縁に使った勾配天井、離れの座敷には面皮柱、腰付き障子など民家風数寄屋造りの住宅で、住む人の人柄が偲ばれる華美でも豪華でもない保養の目的が伝わる建物です。

ここを別荘として買い求めた万代順四郎氏は、明治 16 年（1883）岡山県に生まれ、苦学して現在の青山学院を卒業し三井銀行へ入行しました。昭和 12 年（1937）には同行会長に就任しましたが同年、体調のすぐれないトミ夫人の転地療養のためこの地に別荘を購入しました。順四郎氏は、戦中は帝国銀行会長や全国銀行協会連合会会長を歴任、戦後は公職追放となりますが解除後は東京通信工業（現ソニー）会長、東邦瓦斯、トヨタ自動車などの相談役や顧問を務め経済界で活躍しました。東京へ通勤もしながら農作業もし、夫婦睦まじくこの地で暮らしましたが、昭和 34 年（1959）75 歳で他界しました。

トミ夫人は 85 歳で亡くなるまでこの地でバラや果樹づくりを行い近隣の方々と交流しながらの暮らしでした。

（2018 年 9 月現在）